

2019 年度 自己評価結果公表シート

学校法人西那須野学園
認定こども園西那須野幼稚園

1. 本園の教育について

教育理念及び目標

『自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ（マタイによる福音書 19 章 19 節）』
を、本園の保育の原点とし、キリスト教の理念に基づく教育・保育を行う。

- 教育目標
 - 自立性：自ら判断し 自分のことは自分でできる子ども
 - 連帯性：友達と仲良くし 生命を大切にする子ども
 - 創造性：自分で考え 新しいものを創る子ども

2. 自己評価について

評価は3段階評価 [A：達成されている、 B：概ね達成されている、 C：取り組みが不十分]

I 保育の計画性	評価	取り組み状況
園の教育理念・教育方針の理解	A	園内研修
幼稚園教育要領の理解	B	保育日誌・カリキュラム等
教育課程の編成	B	園行事への共通理解
指導計画の作成	A	遊びこむ環境構成
環境構成	A	子どもの7行7を 遊びに採用
保育と計画の評価・反省	A	

II 保育の在り方、幼児への対応	評価	取り組み状況
健康と安全への配慮	A	全体で視診を強化
幼児のみとりと理解	A	毎日のミーティング（集団）
指導と関わり [共同作業者として]	A	異年齢の混合保育
[あこがれを形成するモデルとして]	A	子どもとのスキンシップ
[心のよりどころとして]	A	災害への備え・訓練
[遊びの援助者として]	A	挨拶（職員・子ども）
[その他]	A	園庭・遊具チェック
保育者同士の協力・連携	A	年齢に沿った見守り

III 教師としての資質や能力・良識・適正	評価	取り組み状況
専門家としての能力	A	担当者会議
良識とマナー	A	専門誌の回覧
義務	A	成功の責任追及
組織の一員としての在り方	A	周囲への感謝・労い
保育の楽しみ・喜び	A	園用品管理の徹底
まわりを感じ取れる感性・アンテナ	A	業務効率化の意識

IV 保護者への対応	評価	取り組み状況
情報の発信と受信	A	家庭訪問・個別面談
協力と支援	A	各種おたより
守秘義務の遵守	A	守秘義務意識の徹底
対応上のマナー・良識	A	送迎時の声かけ
クレームへの対応の仕方	A	保護者協力の行事

V 地域の自然や社会とのかかわり	評価	取り組み状況
地域の自然・人々とのかかわり	B	地域施設の利用
小学校との連携	A	地域住民との交流会
地域への開放と支援	B	マイチャレンジの受入れ

VI 研修と研究	評価	取り組み状況
研修・研究への意欲・態度	B	各種研修(園内外)
教師としての専門性に関する研修・研究	A	自身のテーマを持つ保育
遊具・教材に関する研修・研究	A	遊具利用エンターション
園内の環境に関する研修・研究	B	公開保育
今日的課題に関する研修・研究	A	研修報告
自らを高めるための学習	A	感染症、アレルギー情報

3. 評価結果

今年度は、あいさつと安全への配慮に重点を置いて取り組みました。時と場面に応じたあいさつの種類や使い方を子どもに伝え、運動遊び前には怪我予防のための準備運動を行うなどして職員間で意識を高め合った結果、目標の達成はもとより、日頃の子どもへの接し方や理解にも良い影響を与られました。

教育理念や方針への理解度は深いものの、保育の評価や反省の方法については、改善の余地があります。保護者への情報発信は、大規模園ゆえに一斉メールやおたより等に頼らざるを得ない部分もありますが、短時間でも日頃の保護者との会話や親子間の様子をみとることで、信頼関係を築くことができています。

今後は地域社会や自然とのかかわり、自己の研修・研究などについて、園の外にも広く目を向けた環境作りの向上を目指します。

4. 今後の課題と目標

子ども達が、これからの正解のない時代をその時その時の適解を求めて善く生きるためには、非認知能力が大切といわれ、その土台作りとしての遊びが幼児保育に求められています。子ども達のより良い未来を考えて、自己評価によるPDCAサイクルの手法を用いながら園教育の内容（カリキュラム）を改訂していくなど、保育の質向上を目指します。

今年度は、2回の公開保育の機会をいただきました。準備にあたっては、第三者評価機関である（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム（ECEQ）」を参考にし、目的を持った公開保育とその振り返りを行うことができました。

「地域の自然や社会とのかかわり」の評価は、概ね達成ではありますが、大切にしてきた山林観察園や野外活動センターでの自然活動が、原発事故の放射能汚染により使用できない状態ですので、代替の経験ができるよう検討中です。

子ども達のより良い自己形成のために、地域や他団体の方から沢山のご協力をいただいております（コミュニティー・インクルージョン）。中学生の職業体験や五軒町区の皆様とのクリスマス会。更に「地域親」としての役割を担う更正保護女性の会の皆様との昼食会は13年目になります。また、那須YMCAとの協力による、幼児から小学生までが様々な体験や遊びを通して育ち合うサタデークラブ（土曜日実施）も、順調に17年目を迎えることができました。

昨年度からは、地域の子ども達と保護者、地域の大人が自由に集える異世代交流の場（ドロップ・イン）として、「けあらーず かふえ」をオープンすることができました。今後も、地域交流の架け橋となるよう、更なる充実を目指していきたいと思えます。

5. 学校関係者の評価 《宮城教育大学名誉教授 長谷川 茂》

この園は全国的にみても希有な存在だ。設立当初から発達支援児に対する教育に力を入れ、共に育ち合うインクルーシブ教育を実践してきた。そしてそれは、子どもに対してだけでなく、園で働く大人にも当てはまる。合理化・効率化だけに囚われず、個人を大切に考え、互いに補い合うという人と人とのつながりがここにはある。大人も子どもも、誰かから必要とされていること、自分を認めてもらえることを知ることができる。

これらの地道な努力とその功績は、一見してわかるものではないが、長年、この園の子ども達が育つ過程を目の当たりにしてきた身としては、大きく実を結んでいると確信している。